

# 19、Duchenne 型筋ジストロフィー の知能に関する研究

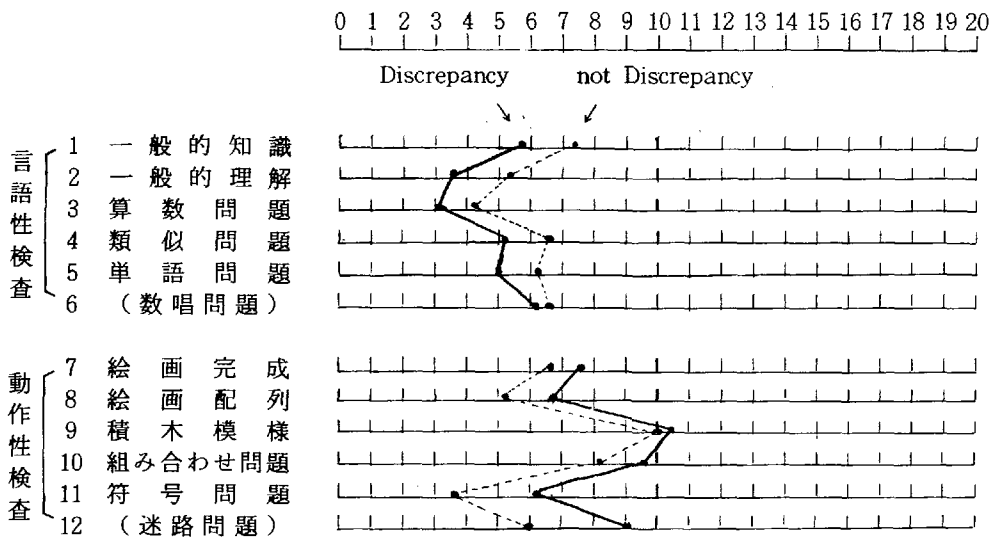
国立療養所箱根病院

稲永光幸 三宅孝子

P・M・D児のWISK知能診断検査結果において、言語性IQが動作性IQに比し低いとの報告が従来繰り返されてきた。この discrepancy の原因が、P・M・D児の他精神発達に比しての言語発達遅滞にあるとの仮説も提出されている。しかし、P・M・D児の言語発達に関する詳細な報告は未だなされていない。今回我々はP・M・D児の言語発達検討の為ITPA（イリノイ式言語学習能力診断検査）を実施し、またあわせて同一被験児にWISKを実施し、VIQ、PIQ間の Discrepancy への言語発達の影響を検討した。被験児は8才から11才（平均暦年令10：4才）のP・M・D児24例である。

WISKの結果、平均FIQ 74.3、PIQ 83.3、VIQ 70.8 とともに低下が認められた。またPIQとVIQの差が15以上のものが24例中12例みられた。この12例は全児PIQがVIQに比し高得点であった。この12例を Discrepancy 群とし、残り12例の not Discrepancy 群と比較するとFIQには有意差は認められなかった。この二群間で下位検査得点を比較すると、レベルにおいては言語性下位検査項目は全検査項目 not Discrepancy 群が、動作性下位検査項目では全検査項目 Discrepancy 群が、その平均得点で高得点を示したが、そのプロフィールは同一傾向を示した（表I）。

（表I） WISC下位検査プロフィール



ITPAの結果：言語学習能力（P・L・A）は上限より平均2：6才、暦年令より平均3：0才の遅れを示した。PLAを二群間で比較すると、Discrepancy 群では暦年令より平均2：9才の遅れ、not Discrepancy 群では平均3：2才の遅れを示し、二群に有意差はみられなかった。ITPA下位検査得点においても、二群間にプロフィールの差はみられなかった。上記よりWISKのPIQ、VIQ間のDiscrepancyの原因は言語発達以外の要因によるものと思われる、今後尚検討を要する。

PLAとVIQには .85、PLAとPIQには .81のともに有意な高相関がみられ、両検査の低得点に共通の要因が働いていると考えられる。

P・M・D児の言語発達特徴を、ITPA下位検査得点より検討した。各下位検査項目の発達年令とPLAとの差に1：6才以上を示した被験児の人数分布と、各検査項目の平均発達年令を表Ⅱに示した。平均発達年令、被験児人数分布ともに、受容能力の二検査項目（ことばの理解、絵の理解）で高得点を、表現能力の二検査項目（ことばの表現、動作の表現）で低得点を示した。また全下位検査項目で、その平均発達年令は暦年令に比し明らかな低下を示した。表現能力の検査項目の低得点の原因としては、絶対的な表現量自体が少ないとの記録もあるが、そのみでは説明できない低下であり、「表現」「受容」のこのDiscrepancyを今後更に検討する必要がある。

(表Ⅱ)

	表 象 水 準						自 動 水 準			
	受容能力		連合能力		表現	能力	構成能力		配列記憶能力	
	こ と ば の 理 解	絵 の 理 解	こ と ば の 推	絵 の 類 推	こ と ば の 現	動 作 の 現	文 の 構 成	絵 さ が し	数 の 記 憶	形 の 記 憶
1					-	-				-
2					-	-		+		
3					-	-				-
4					-	-		+		
5									-	-
6					-	-				+
7			-					+	+	
8		+								
9		+		-						
10					-	-				
11		+			-	-		+		-
12	+	+			-	-				+
13	+	+							-	
14	+				-	-	+	-		
15	+	+	+				+			-
16	+									
17	+				-	-			+	
18	+	+							-	
19						-				
20	+							+		
21				-	-	-			+	
22	+	+						+	-	-
23								+	-	
24										
	7-11	7-10	7-3	7-0	5-6	4-11	6-8	7-5	6-8	6-4

↓  
**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります  
↓

P・M・D 児の WISK 知能診断検査結果において、言語性 IQ が動作性 IQ に比し低いとの報告が従来繰り返しなされてきた。この discrepancy の原因が、P・M・D 児の他精神発達に比しての言語発達遅滞にあるとの仮説も提出されている。しかし、P・M・D 児の言語発達に関する詳細な報告は未だなされていない。今回我々は P・M・D 児の言語発達検討の為に ITPA(イリノイ式言語学習能力診断検査)を実施し、またあわせて同一被験児に WISK を実施し、VIQ、PIQ 間の Discrepancy への言語発達の影響を検討した。被験児は 8 才から 11 才(平均暦年齢 10:4 才)の P・M・D 児 24 例である。